

## 第2回 笠松町第6次総合計画審議会 議事概要

日 時	令和2年10月5日（月） 13:30～15:15
場 所	笠松町役場 4階大会議室
出席の委員	大成委員 岩井委員 山田委員 田村委員 岩田委員 岡田委員 片山委員 小島委員 松原委員 久納委員 古澤委員 樋口委員 伏屋委員 カラギョル委員 高島委員 (以上16名)
欠席の委員	内田委員 伊藤委員 堀場委員 (以上3名)
議事概要	<p><b>① 住民・中学生意識調査結果報告について</b></p> <p>○ (4) 将来像のキーワードに関して、中学生意識調査結果グラフがない。また、住民意識調査と中学生意識調査の設問は異なっているのか。(岩井副会長・樋口委員)</p> <p>→ 異なる表現を用いている。グラフを精査し、反映させる。(事務局)</p> <p>○ 中学生に対し「暮らしやすさ」「今後住み続けたいか」という質問を投げても、家庭環境や交友関係等に基づく回答になるだろうから、意味がないのではないか。(カラギョル委員)</p> <p>→ 今後同様の調査をする際には配慮する。(事務局)</p> <p><b>② 序論・基本構想の素案について</b></p> <p>○ 全体を通して表現がわかりづらい。特に「基本」という表現が多用されているのが気になる。また、基本構想の中に基本理念と基本方針があると思うが一度整理してほしい。(古澤委員)</p> <p>→ 理念があり、実現のための戦略という柱を立て、戦術・施策を練る。かみ砕いたわかりやすい表現を用いて制作にあたってもらうようにする。(町長)</p> <p>○ 人口減少を食い止めるに留まらず、人口を増やすための施策を見いだせるのではないかと考える。ベッタウンであることを全面に推して取り組めばよい。企業立地は難しい中で移住者として都会(名古屋圏)で働く人をターゲットにしてはどうか。また、三角駐車を交流拠点とし、地域を活性化していきたい。人口ビジョンとしての22,000人は少ないと思う。(伏屋委員)</p> <p>○ 前計画時には事業実施に係る交付金があったように記憶しているが今回はどうか。(岩井副会長)</p> <p>→ 前回は総合計画と総合戦略を分けて策定しており、総合戦略に挙げた事業に関しては地方創生交付金の対象となるものがあった。今回の総合計画において、今時点でそういった枠組みがあるわけではないが、総合計画に基づく道路整備や河川改修に対する補助という形で打ち出されるのではないかと考えている。(事務局)</p> <p>○ 各事業において、SDGsにどのように紐づいているのか可視化されている方がよいと考える。ローリング方式について説明いただきたい。豊かな知識や経験をもつ高齢者が活躍できるような地域社会づくりを目指したい。高齢者や社会的少数者以外にも子ども、女性、外国人というワードを取り入れてほしい。(久納委員)</p> <p>→ SDGs関連については各課作成中の事業を見ながら検討する。ローリング方式は毎年事業の進捗状況を確認して目標の達成や事業の見直しを図るもの。(事務局)</p> <p>○ 人口減少は常に問題視されているが果たして本当に問題なのだろうか。ある調査によると「幸福度」が高いのは貧しい国であったりする。人口の増減と幸福度が必ずしも合致するわけではないという視点も入れながら取り組んでも良いのかもしれない。(樋口委員)</p> <p>○ 東京圏からの移住支援金の支給実績はあるか。(山田委員)</p> <p>→ 実績なし。県内でも2～3事例。(事務局)</p>

- SDGs を身近な人に伝える活動をしているが認知度はまだまだ低い状況である。計画に掲げるのは良いが、しっかり全員が理解したうえで掲げていきたい。(カラギョル委員)
- 人口の動きが横ばいである予測だが、それが良いのか悪いのか、それにより施策を打ち出していくのが良い。そうすることで住民の理解も得られるのではないだろうか。教育について、もっと具体的に記載した方が良い。(高島委員)
- 序論6「まちづくりの課題」は基本方向は関連しているのか。(古澤委員)
  - 課題を掲げてそれを解決するための基本方向としているが、完全にリンクしているわけではない。それが、わかりにくさにも繋がっている恐れがあるため整理する。(事務局)
- 色使いが見にくいので、誰にでも見やすいよう考慮してもらいたい。(山田委員)
- 町は様々な場面で3地域を分けて扱われているが、分ける必要があるのか。(大成会長)
  - 様々な歴史的背景はあるが、やはり、3地域ごとで住民構成は異なっており、また、細長い町の形状も踏まえると、3地域ごと分けて考えた方がよいと考える。(岩井副会長)
  - 意識調査の回答も3地域ごとに集計があると新しいことが見えてくると思う。(樋口委員)
- 将来人口設定の考え方について、数値はあくまで目標値であるため、様々な取組を経た結果が表れるものだという認識で良い。その数値に固執することはない。(町長)
  - 目標は高く設定することで、取り組む職員の士気を高めることにつながる。目標が低いと、それに合わせた仕事量になってしまうことが懸念される。(伏屋委員)
- 基本構想2、(2)の5項の「元気に」の表現だが、中には心や身体が不自由な方もいるため、少し引かかる。(樋口委員)
- 個性を活かすとは具体的にどういう意味を持っているのか。(高島委員)
  - 前計画時では「各個人の生き方や考えを尊重しましょう」という意味を持たせていた。(岩井副会長)
- 転入者の増加を目指すよりも、町外への流出を食い止めることに力を注いだ方が得策といえるかもしれない。(大成会長)

### ③ その他

【今後のスケジュール】

11月～12月に第3回審議会開催予定

12月にパブリックコメント実施予定

